

「宇宙クジラと火星の砂 紹介文」

岡和田晃

今回ご紹介する作品は、『エクリップス・フェイズ』日本語版翻訳監修者、朱鷺田祐介の短篇小説第3弾「宇宙クジラと火星の砂」だ。

『エクリップス・フェイズ』の世界ではクジラ型の義体「スーリヤ」というものが登場する。体長は10メートルにも及び、太陽のコロナの中を無傷で飛び回ることができる特異な義体だ。

そう、クジラと言えばSFの華。イアン・ワトスン『ヨナ・キット』など、数々の名作が思い浮かぶだろう。『エクリップス・フェイズ』を使えば、新たな「クジラもの」のSF作品を表現可能なのだ。

このクジラ型義体「スーリヤ」をまとったメアリー・Iをはじめ、ランディ・シーゲルや佐藤海といった「ファイアウォール」のエージェントたちは、朱鷺田祐介の短篇「サングライダーの幻影」でお目見えしたキャラクターたちである。ロールプレイングゲームでは、同じキャラクターが舞台を変えてさまざまな冒険を執り行うのだ。今回のミッション

ンで彼らは、火星の砂に何を見たのか。

朱鷺田祐介は日本を代表するゲームデザイナー／ライターの一人として知られている。『エクリプス・フェイズ』以前にも、サイバーパンクRPG『シャドウラン』第4版の翻訳監修を手がけてもいる。ゲームライターならではのガジェットの使用方を注視してほしい。また、故レイ・ブラッドベリへのリスペクトも感じ取っていただきたい。